

---

# おかしな夏休み ~ Odd Summer ~

BARON

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おかしな夏休み〜Odd Summer〜

### 【Nコード】

N8547V

### 【作者名】

BARON

### 【あらすじ】

毎年夏をだらだら過ごしていた少年だが今年の夏は、いつもと違う親に振り回され行き着いた先はかなりの田舎その田舎で不思議なことにまきこまれてしまう少年その少年がこの土地で過ごした一週間その物語が今ここに

## 一日目く始まりと出会い（前書き）

これと同じ名前の小説あると思いますが、これはその改変版です。内容は、あまり変わらないので

今、この小説を読んでいると言うことは、今僕はこの世に……

冗談です。元気にだらだらしていますから

新参者で初心者です。

おかしな所も多々あると思います

そのところは指摘の方お願いします。

この小説は、実話を元に書かれています。

## 一日目　始まりと出会い

今、僕こと　東川　冬弥は、家族旅行で九州は大分県の宇佐市に来ている。

なぜにこんな何もない所に来ているのか？　どうしてメジャーな所に行かないのか？

俺だって好きで来てないわ！

いけるモンならU　JとかTD　・T　Sとかに行ってるわ！

でもいけないんだよ！　だってもうすぐお盆じゃないか、だからこの地に眠る祖父と祖母に会いに来たんだよ

確かに昔の人を重んじる事は大切だよ、でも一度も会ったことないからね

あと親父も昔の友人に会いたいとか言っちゃってるから、

「行きたくないゲームしたい」

みたいな発言をして親父の意見を否定でもしてみなさいよ、すぐに仁王立ちをした般若が目の前に現れてしばかれますよ。

そう言う訳で付いてきました　多少口論は、ありもしたが

まあなんやかんやありましてこれから一週間泊まる民宿に着きました。

いや　さすがに3時間半座っていると痺れますな　おもに下半身が・

「お　い　冬弥着いたぞ、起きなさい」

「起きてますよ　爽やかにいい笑顔で起きてますよ」

「嘘をつくなら、もっとマシな嘘をつきなさい」

何だよ！マシな嘘って、てか嘘扱いかよ！

つつこみを入れつつ、少し体を動かしたいから車外に出てみることに

そ〜言えば俺、民宿に泊まるの初めてだな〜 初体験だな〜

「それにしても歴史がありそうな民宿だな〜とりあえず写真 写真」

パシャ？9

いかんいかん連射してしまった。まあ適当なやつを保存と。

「お〜いチエックインしたから部屋に荷物を持っておいでくれ」

「りよ〜かい〜 たく、人使いが荒いな」

小声で文句を言いつつ荷物を取りに、あ 何号室なのか聞いてない、とりあえず荷物を玄関に持って行こう。

「お部屋はこちらです、あとお荷物お持ちします」

玄関先で声をかけてきたのは、同じ歳ぐらいの可愛い女の子。

例えるならば、AK 4 など芋の集まりに見えてしまうそれぐらい可愛い・・・

緊張してきた・・・

「あ、荷物は結構です。部屋のほうをお願いします」大丈夫かな、声震えてない？

「分かりました、ではこちらです」どうやら大丈夫のようだ。

安心してつつ付いてくことに どのようして声をかけよう？

べたに おいくつですか〜 とか お綺麗ですね〜 など

だがしかし、今まで女性に声をかけたことなどない。

こんな時に、なぜ友達に誘われた合コンに行かなかったのか  
こんなウブな自分に嫌気が差すよ、

みたいな感じの自問自答していたら向こうから・・・

「何歳なんですか？見た限り私と同じ年齢に見えるのですが」

「16才ですよ、高校にも行ってますよ」

「ホントですか！私も16才なんですよ、あと地元の高校に通ってますよ」………

そんなやりとりをしていると、部屋に着いた。

「ここですね、どうぞごゆっくりと　あと夜、私の部屋で待ってますので」

「わかりました、ではあとで」

ん？何か気になっている様子だね、

まあ簡単に説明すると、移動中　意気投合しました。って事かなかなり略しましたね、

ならここで移動中に知った情報を報告したいと思う。

・彼女の名前は、藤谷　美紗

・高校一年生（同学年だな）

・お話が大好き　特にオバケ関連

・霊感がつよいらしい　あと物の怪（妖怪）を見たことがあるらしい  
そこで「俺も、見たことあるよ」って言ったら詳しく聞きたい  
ってなった

だから部屋に来て

これがことのすべてです。けっしてやましい気持ちで部屋向かう訳ではないのであしからず

これにて報告終了。

こんな事をしつつ荷物の整理を終えた。今になって車での移動疲れがやってきた、

（やばい、眠くなってきた　睡魔に勝てないなこりゃ）

・  
・  
・  
仕方ないので少し寝ることにしよう、夕食には起きなさい  
のだから・・・

一日目〜始まりと出会い〜（後書き）

長々とすみません

よろしければコメントの方お願いします。

一日目(終)〜理不尽な人〜(前書き)

もうすぐ出校日なのに、未だに課題が終わってない・・・  
こんなことしてて やばいな・・・

一日目(終)〜理不尽な人〜

……どのくらい寝たのだろうか？すでに薄暗くなっているしでも夕食の時間はまだらしいな。よし顔でも洗うか、

パシヤ　パシヤ

「ふあ〜あ、よく寝た〜しかし相当疲れが溜まってたらしいな」  
ん？足音が近づいてきているな、親父かな？

「冬弥〜起きているか？夕食の時間だから出てきなさい」  
タイミングがいいな、こっちの準備できてるから行くかな、

少年食事中……

日本食はやはりおいしいな、ただ苦手な野菜は多すぎたが……  
そんなことより、この後　美紗の部屋に行くんだったな〜  
行きにくいな〜　いやだつて女子の部屋つて行きにくいかな？  
分からないかね？日本中の純情を持つ少年たちよ！

いかんいかん少し発狂してしまった　しかも時計を見ればもう時間  
じゃないか！

仕方ない、腹を括るか……

少年移動中……

着いてしまった……　なんか扉に可愛い看板が　「美紗の部屋」  
入りにくいわ〜！いかん、いかんぞ　これは無理だ　僕にはまだレ  
ベルが足りない……

よし！一度旅に出てメタルスラムで経験値を稼がなければ……

ガチャ（扉が開く音）

「あゝのゝいつになつたら入るのですか？さっきから部屋の前でブツブツ言つて、」

え？今何をおつしやいましたか？まるで部屋の前にいるのが分かつて、独り言も聞いてたみたいなの。

「あとメタルス イムがどうかしたのですか？（首を傾げている）」  
完全に聞かれてるじゃないか！やばい、どうやって誤魔化そう・・・

1 素直に喋る

2 「今ここにいたんだよ」とふざける

3 戦略的撤退

3 戦略的撤退

決まれば、即決行だ！

・  
・  
・

なぜだ？なぜこうなった？

どうした私は彼女のベッドで寝ているのだ？あと作戦の後の記憶もないし・・・

「あ、起きましたか 大丈夫ですか？突然倒れたので驚きましたよ  
倒れた？俺が？ でも彼女が嘘をついてるように見えない。一様  
聞くか・・・」

「確か、僕って歩こうとしと《突然倒れたんです！》あ、はいあり

がとつございます」

今一瞬彼女の後ろからオーラが見えたような・・・

これは、彼女の言うとおりでだと思っておこう、じゃないと（ニッコリ）ほら〜なんか怖いモン、

「すみませんが、僕どのくらい寝てましたか？」

「10分くらい、気絶してました、よ」

・・・今ボロだしたよね？もう隠さないって事は・・・  
気にしない、気にしない 気にしたら負けだよね、

「それよりお話しませんか？主に怪談話を・・・」

それよりって 酷いな扱いだな・・・「僕あまりネタ持ってませんし、あと苦手なんですy」私からお話しますね」あ、分かりました・・・」

こうして僕は、強引に話に付き合わされ、帰されたのが明朝5時だったのは言うまでもない・・・

一日目(終)〜理不尽な人〜(後書き)

指摘のコメント

感想

賛同のコメント

受付中

二日目～無計画～(前書き)

みなさま～

コメントくださいよ～

評価してくださいよ～

## 二日目／無計画

・・・いま、何時だ・・・9時か　ここはどこだ・・・ベッドの上か、

頭が痛い、いつたい俺は何をしていたんだ？

少年思い出し中・・・

えゝたしか、美紗から解放してもらったのが、朝5時だったよな。で、俺はふらふらな足どりで部屋に無事ではないが帰還し、ベッドの上に倒れ込んだ・・・

そして今に至る訳だな、いやゝホントに苦しかったな・・・

おい！そこにいる君たち！なぜ僕の意見に賛同してくれないんだ！君たちはどうせ「女の子と至福のひととき過ごしたんだろ」と思ってるんだろ。

ちがゝう　決して違うぞ！・・・

少年回想中・・・

「冬弥さゝん、寝てないですよ？楽しいお話してるのに寝てるなんてありませんよね？」

「寝てません！決して寝てませんからね、ですから怖い笑みで近づかないでくださいよ（ブルブル）」

「乙女に向かつて失礼ですね、少しお仕置が必要かしら？　でもね冬弥さん、こうした方が雰囲気出るでしょう？」

出てます！十二分に出てますよ！

「あ、そろそろお開きにしませんか？美紗も朝から宿の手伝いがあると思いますし」

「大丈夫ですよ。いつもはもっと遅くに寝ますから。」

最悪だ〜とんでもない事実、発掘してしまった。やばいこのままでいくと最低2回は死ぬるぞ。

「けど、さすがに冬弥さんがかわいそうですね（きた！！ 女神が降臨した！ やつと寝れるぞ）だからあと一話だけしてお開きにしましょうね。」 どうしてそうなるのー ……

と言うわけで決めてあま〜い時間を堪能したわけではないのだよ。

しかし4時間しか寝てないな、まあ一様HPは回復してるようだな。あ、朝飯食い損ねた！ くそ〜なんで親父たちは起こしてくれなかつたんだ、

一喝してやる！どこだ！

少年は両親を発見することはできなかった。

どうしてだ！ こうなったら…

「女将さん！家の親父たち知りませんか？」

「あら、おはようございます。遅かったですね、たった今お二人は仲睦まじくお出かけしましたよ」

くう〜〜〜タツチの差か、

「朝食どうしますか？ああでもまずはお顔を洗ってこないと」

え？朝食は分かるが なしてそんなこといったんだ？

「目の下凄いクマですよ、あと髪型も…」

なるほど、そう言う事ね…よし撤退しよう。

少年撤退&支度中…

「女将さん〜朝食お願いします〜」 今俺は、居間にて女将さん  
を呼んでる途中だ、

「用意できてますよ〜 あら、さっきとは見違えるほどになりまし

たね」

女将さん・・・笑っている顔隠せてないですよ、やっぱり美紗の母親なんだな〜っておもいました。

「ところで冬弥さん、この後のご予定は？」 あ、まだ決めてなかったな。いやいや違う、親父たちが置いてったから予定が狂ったんだ、そうだ そうに違いない。

「あの〜冬弥さん？どうしましたか？」 おつといけない、心配させてしまったようだな。

「どうもしてませんよ〜ただこの味噌汁がおいしいから我を忘れてしまっただけです。ええとこの後の予定ですね、特に決まってるんね」

「なら、家の娘、にこちら辺を案内させましょうね、もう娘と打ち解けて部屋で何かしてようだしね〜」 あれ〜どうして女将さん笑っているのに怖い雰囲気だしてるんだ？

「ええ一様仲良くさせていたいです。けど美紗さんにめいわくじゃな《私なら大丈夫ですよ》ないようですね、ならお願いします」

美紗がパーティーに加わった

と云う事で今日は、美紗と宇佐市内をぶらつくことになった。

二日目〜無計画〜(後書き)

まだうまく書けません

ので、温かい目でお願ひします。

## 二日目(終)〜思い出〜(前書き)

今回は、知り合いのDragoonさんの作品「CHAOS Break」と少しだけクロスしました。

もし、良ければDragoonさんの作品も読んであげてくださいね。

> おこがましいですが、私の作品のコメント・評価もお願いしますね

## 二日目（終）〜思い出〜

『最近名古屋駅の近辺で猟奇的殺人事件が多発しています。』

被害者は皆腹部を鋭い

刃物で切り開かれ、

臓器が抜かれた状態で発見されているとのこと。』

犯人は未だに捕まっておらず、警察

では

「世の中も物騒になったもんだなあ・・・何だよ、猟奇的殺人事件  
つて、家族旅行が終わるまでには犯人捕まっとけばいいけどな」  
そんなことをボヤキながらケータイを閉じる冬弥

なぜ彼がケータイのニュースを見ていたのかと言つと・・・  
「すみません、お待たせしました。それでは行きましょうか 冬弥  
さん」

そう、美紗の着替えを待っていたのだ。そして冬弥は思う。

（どうして、女子って着替えるのにこんなに時間がかかるのか？）

「今失礼な事考えてませんか？」

「そ、そんなことけっつして考えておりませんよ・・・」（ホント  
に冬弥さんって分かりやすいだね）

傍から見たらバカップルに見えるようなやり取りをしつつ、宇佐市  
内の散歩に出かけた二人であった。

「……でここが私が通っている高校ですよ」「へ〜そうなんだ、大きいとこだね」

（さつきからどうして？ どうして美紗の思い出の場所に案内されるんだ？）

冬弥は、美紗が生まれた病院、通ってた小学校・中学校などの場所に計3時間かけて案内されたのだった。

「あの〜美紗さん、観光地とかなに行かないのですか？」

「え、冬弥さんは、私の思い出に興味がない《ありますよ！ありますから笑顔で歩み寄らないでください

、いや 別に美紗に近づかれたくないからって意味じゃないかね！嫌いじゃないからね、

だから……》」

まあなんやかんやありまして今、美紗さんに連れられアクセサリショップや服屋などを巡っています。

いや〜やっぱり女性専門店のお店は、入りにくいし 周りの視線が痛いね、そのうち視線に殺されるのではないかって思ってしまったよ。 もしや全国の彼女持ちのリヤ充はあんな事しているのか？

もしそうならば、むかつきと共に尊敬の眼差しをプレゼントしてやんよ。

おっとそんなこと思ってたら会計を終わらして美紗がこっちに来た「お待たせしました。あとどこ行きましょうか っと思いましたがどそろそろ夕食の時間ですね、

冬弥さんはもう用事とかないですか？ないなら帰りませんか？」

「う〜ん 特にないな、お腹も空いてきたから帰ろうか」

「お母さん、ただいま帰りました。何か手伝うことありますか？」  
「あーら 美紗ちゃん帰って来たのね、私はてっきり冬弥さんと食べてくるのだとおもってたわ。」

え〜と手伝いよね、今はないわ、その代わり後でお願いするわね」  
「わかりました、あと服替えてから夕食いただきますから冬弥さんはどうします？」

「僕も替えてからいただくよ」「な、なら私と一緒に食べませんか」

う〜んどうしようかな、俺はゆっくりと食べたかったんだけど・・・  
まあたまには、女の子と食べるのも悪くないだろう、

それにここら辺の観光地も聞けるからな、明日はちゃんと計画してから出発しよう。

そう心に誓った冬弥でした。

## 二日目(終)〜思い出〜(後書き)

短くてすみません。

へたくそですいません。

少し急いで書いたので今回は、ホントすいません  
次は、いつも通りやります。

あと数回くらい他の小説クロスさせようと考えています。

ご意見 感想 コメント 評価 あとクロスおk方

いつまでも募集してるので皆さんよろしく〜

## 第一回目 オリジナルキャラクター紹介（前書き）

今回は、時間潰しで書くことにしました。

早いうちに新作あげますのでご期待！

## 第一回目 オリジナルキャラクター紹介

主人公

東川 冬弥  
ひがしかわ  
とじや

性別：年頃の男の子 年齢：ピチピチの16歳

誕生日：2月8日（応神天皇と同じだよ）

身長：171？

体重：47？

座高：72？

出身地：愛知県の田舎

在学学校：古谷高等学校（第一学年）

容姿：髪は全体的に長く、細身で足が細くて長い

（ここが自慢だよ）

趣味：運動 読書 悪友との悪巧み 写真

性格：いけいけドンドン型だが、女子の前だとて

んで駄目な人

常時品：懐中時計（思い出の品） 水晶のお守り  
（ペンダント）

学力は、そこまで悪くはない。ただ数学が苦手気味。

靈感が少し強く、しばしば幽霊らしきものを見たりする。  
非現実を好み、一人でいろんな所に行ったりする、けど行った  
先で毎回不思議な事に

巻き込まれている。

今回宇佐に来た理由はただの家族旅行ではないらしいが・

・・・

ヒロイン？

ふじたに  
藤谷 美紗 みさ

性別：女の子 年齢：キャピキャピの16歳

誕生日：3月12日

身長：165？

体重：4h「女の子の体重聞くなんて・・・覚悟

はできてますか？」

座高：65？

出身：宇佐市内

在学学校：宇佐ノ宮第一高等学校

容姿：バカとテ トと召還 に出てくる某胸がペ  
ツタンコの女の子似

ただ髪は黒くロング

性格：けっこう天然だけど、ここぞと言う時は猪  
突猛進型に早変わり

至って普通の女子高生だが怖い話となると怖いくらい人  
が変わって食い付く

近くにある宇佐神宮によく散歩で立ち寄るが不思議な事  
は今まで起こってない

今回旅館に来た東川 冬弥との出会いで一目惚れ気味

冴えない家族

親父：東川 ひがしかわ 祐司 ゆうじ

今回旅行を立てた張本人。どうやらただのお盆帰りで  
はないらしい

だが何を考えているのか分からない。

息子を置いて奥さんと観光しているが、どうやら意図  
的にやっている。

母親：東川 ひがしかわ  
一美 かずみ

> データが壊されています・・・

> 再更新の余地があります

更新しますか？

します

しません

t i n n e e d . . . . .

> T O B E C O N

## 第一回目 オリジナルキャラクター紹介（後書き）

皆さんどうでしたか。

一様オリキャラの紹介をしましたが、  
まだ続きの案が浮かんでないのです。

あともう一度くらいオリキャラの紹介しますのでよろしくです。

コメント 感想おまちしてますので

### 三日目〱旅立ち〱（前書き）

久方ぶりに投稿します。

いや〱病院で入院とか学校関連の事とかで  
更新できませんでした・・・

これらはちよくちよく投稿しますのでおねがいします。

### 三日目　旅立ち

「突然ですか、ここで質問です。皆さんは唐揚げの発祥の地をどこ存じですか？」

「にゃ〜んとここ宇佐は唐揚げの発祥の地らしいのです」（心の声）

そんなことを心の中で呟いてきながら、‘からあげ’を頬張る冬弥くんでした。

「いや〜朝からからあげは、さすがに胃にきますな〜　まあでもあそこまで勧められたら買わないと悪いしね〜」

数分前・・・

「おに〜ちゃん、ほっそい体してるともてへんし、今なら少しだけ安くするかいね〜」

「いや、でも今お腹いっぱいなのでけっこうd　そらあかんよ、おに〜ちゃん、男の子は少し筋肉着きすぎがええんやからなあ、だから買いな　はい、分かりました・・・」

こんなに勧められてあなたは、あなたは断れますか？

断れると言った貴方には、この唐揚げ券（50円引き）を贈呈しようではないか。

まあ独り言は、これぐらいにして

「さて、まずはここから近い東光寺にでも行くかな」

少年移動中・・・

「うわー石像がいっぱいだな、色々あっておもしろいな あ！この石像顔がアントニ 猪木みたい こっちのは、島田しんす さんみたい あ、こっちは・・・」

なんだかんだで見て回った40分間・・・

そしてその間木陰の後ろからこっちを見てくる視線  
だが見られている当の本人は、「あははh こっちのやつは・・・」  
全く気づく気配がない。

「よしこれで536体見て回れたな。なら次はよし、鬼のミイラを見に行こう」

また少年移動中・・・

「ここが音の調べ通りか、ていう事はもうすぐ着くね、楽しみだな  
〜どんなのだろう鬼のミイラって」

鼻歌を歌いながら、歩く少年に付いてくる一つ  
の人影

「ぜーぜーやっと登り切ったぞ、何だよこの石段急すぎるんだよ。  
年寄りの気持ちをもうちよい考えて作れよ」 ここまで頑張っ  
た少年を裏切るような出来事が・・・

<本日、休み>

なんと殴り書きしたような字で書かれていた。

「しにたい……ちいくしょーー　ここまで頑張った俺の努力をかえせー」

まあ誰でも発狂するよね。

「四の五の言ってもしょうが無い、次はどこ行こう。時間からして次ぎ回って最後ぐらいだな」

実はすでにこの時点で4時を回っていたのだ。

ん？　昼飯はどうしたかって？　もちろん食べましたよ、ただおもしろい事なかったので割愛しました

いやまじで何も起こらなかつたって、まあ強いていうならめつちや犬に追いかけられたぐらいかな？

あと東光時を出たのが11時50分なんだよ、そこらか頑張ってここまで歩いてきたんだよ。

ん？どうしてバスやその他の移動方法を利用してないかって？　バカやるーお金がかかるだろうが！

「一体さつきから俺は誰に向かって叫んでるんだろう？まあいい次は宇佐神宮だな」

このとき、少年はこれから起こる事など予測してはいない

このとき、少年は先ほどから付いてきてる人影に気づいていない

このとき、少年は……



### 三日目〱旅立ち〱（後書き）

と言うことで終わりました。

結構の間書かないと文才がないことにホントに気づきますね。  
まあそんなときにしないでこれからもかきますよ〱

気がつけば季節はすでに秋です。

だがしかしこの世界ではまだ夏、まるでこの世界だけ取り残された  
みたい。

はたして少年 冬弥はなにに気づきなにが起こるのか？

こうご期待・・・してくださいって強く言えない作者でした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8547v/>

---

おかしな夏休み～Odd Summer～

2011年11月13日11時07分発行